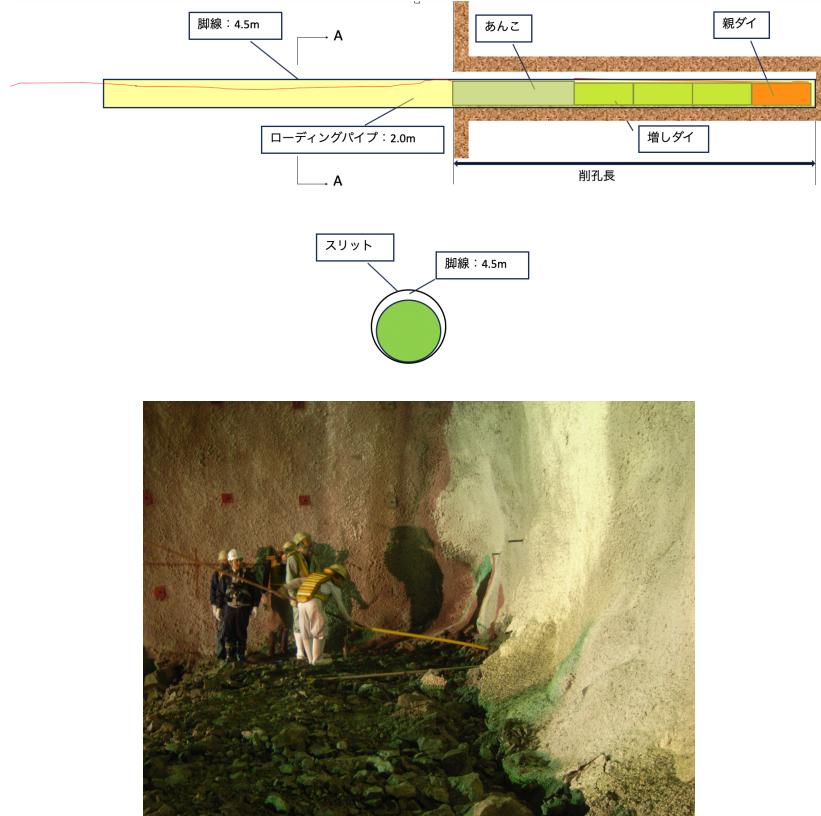


安全設備・技術応募フォーマット

連絡担当者	会社・部署（現場）名：株奥村組	
	代表者氏名：橋高豊明	E-mail： toyoaki.kittaka@okumuragumi.jp
技術名称	切羽からの離隔を確保した火薬装填方法	
参考図・写真		
概要・活用方法	<p>概要</p> <p>本技術は、爆薬装填作業を安全に行うため、爆薬をローディングパイプに詰め、それを爆破孔内に挿入する方法です。この方法により、爆薬装填作業者が爆破孔から離れて作業することができるため、安全性が確保されます。</p> <p>活用方法</p> <p>1. ローディングパイプを用意する 2. ローディングパイプに爆薬を詰める 3. ローディングパイプを爆破孔内に挿入する 4. 爆破孔を爆破する</p>	
特徴・効果	<ul style="list-style-type: none"> ①ローディングパイプを存置した状態で結線作業を行うため、切羽から1m程度の離隔が必然的に確保できる ②孔内にローディングパイプを存置することで、装薬時の穴荒れに伴う「キュウレン」による孔内除去作業のリスク防止がはかれる ③事前にパイプ内に装薬しておき、パイプごと装填することも可能 ④踏前および踏前付け部程度までの高さを対象とする 	
活用上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ①パイプを引き抜きながら込め物（あんこ）を押し込む必要があるが、力加減によってパイプが抜けなくなることがある（存置したまま発破することになる） ②①の関係で押込みが弱くなることから、「密装填」になりにくく爆破威力が小さくなる 	
概算金額等	ローディングパイプ材料費：2m（2000円/本）と3m（4000円/本）、4.5m脚線	
特許・実用新案 NETIS等	<p>特許の有無 技術の所有権</p> <p>カヤクジャパンが2020年に特許申請、2024年4月に特許取得（別添資料）（特許第7470602号 点火信号伝送媒体の収容パイプ及びそれを用いた発破準備方法）</p> <p>*弊社実施は平成21年（2009年）2月</p>	